

特別活動部

部長：関 副部長：河田

(1) 今年度の目標

- ① 校舎改築に伴う斯文祭の校内(公開)実施についての検討
- ② 生徒会の自主的自律的な企画・運営
- ③ HR委員会・研修HRの活性化
- ④ ボランティア活動の活性化

(2) 主な取り組みの計画

- ① 斯文祭について
 - ア 校内(公開)実施における問題点とその解決方法を考える。
 - イ 仮設校舎の使用マニュアルの策定
- ② 生徒会の自主的自律的な企画・運営のために
 - ア 大勢の新入生の自由役員獲得を目指す
 - イ 教員・一般生徒との連絡を密にとる。
- ③ 研修HRの活性化に向けて
 - ア 事前指導の充実
 - イ HR委員の運営力育成に向けての担任との連携強化
 - ウ ディベート講習会を通しての実践
- ④ ボランティア活動の活性化に向けて
 - ア 丸養交流会事前研修の充実
 - イ 斯文祭「ふれあいの部屋」での周知活動
 - ウ 地域のボランティア募集に積極的な参加をめざす

(3) 成 果

- ①
 - ア ・工事区域の拡張により防護壁の利用場所が制限されるのに伴い、校内展示の充実のため南館の活用も含めて計画した。昨年、茶道部への来場者が少なかったが、南館の西側の1階(生物部、化学部)、2階(茶道部、校史展、物理部)を活用することで、南館への来場者も増えた。
 - ・北館の校内展示が増えたため、倉庫に使用できる部屋が減少したが、南館の2階東を使用する事で対応できた。
 - ・展示方法については、昨年計画、実施したので、展示場所増加に伴う新たな設置にも対応できた。
 - イ ・昨年度にマニュアルを作成しており、校舎の使用については昨年同様の使用

形態であったので、周知をスムーズに行うことができた。防護壁の使用については、設置会社が変わったため、事務を通じて確認してもらい、昨年と同様の使用が認められた。

- ② ア 入学当初は多くの自由役員が活動に参加していたが、部活動・勉強と生徒会活動との両立に悩み、やめていく生徒も多かった。
- イ 一般生徒への連絡に関しては、各クラス・各部活動への周知会で連絡事項の徹底をお願いした。生徒会連絡黒板を有効に活用するようにした。また、教員への連絡は担当者を決め、必ず事前に相談するようにさせたが、担当によっては連絡が不十分なところがあった。

- ③ ア 事前のHR委員会で各クラスがそれぞれの計画のプレゼンテーションを行い、質疑応答を通して意見交換をすることで、展開案を再考できた。事前指導を通して、HR委員の意識の向上を図り、充実した活動を行うことができた。実際に、研修HRを参観していただいた先生方からも、昨年度よりも質が高かったという感想をいただいた。
- イ 団会を通して協力を呼びかけ、事前の生徒の展開案の検討、当日の助言など生徒の主体性を尊重しながら積極的に関わっていただけた。また研修HRを積極的に参観していただき、担任クラスのHR運営の活性化に役立てていただいた。
- ウ 昨年に引き続き、1年生はディベート講習会において、各クラスのHR委員の代表者が模擬ディベートを行い、事前準備においても講師の先生の指導を受け、経験を積むことができた。そして彼らが中心となり、各クラスが良く準備された、白熱したディベートを実施することができた。

- ④ ア 今年度も人権・同和教育主任と香川丸亀養護学校より異動して来られた先生に講師をお願いして、事前研修会を開いた。交流会の意義を明確にすることができたので、参加者の取り組み方がさらに充実したものになった。
- また、この交流会に参加するだけにとどまらず、今回の活動を通して得たことを、今後の自分達の生き方にどのように生かしていくかについても考えさせることができたのは、各々がボランティア活動を続けていくためのよいきっかけとすることができた。今年度は、これまで日程の関係で参加できていなかった「丸養まつり」にボランティアとして参加することができたが、休日であったにもかかわらず、交流会に参加した生徒のほとんどが、参加を希望したことは

交流会の成果として認められると考える。丸養の生徒とともにバザー販売を行うことで、さらに交流と理解を深めることができた。

- イ 文化祭でペットボトルのキャップを集めているクラスがあったため、協力してエコキャップ運動についての紹介展示を行った。丸養からは高等部の各作業班の作品と作業内容の紹介パネルをお借りして展示している。交流会の様子も合わせて展示し、参加していない生徒にもわかりやすい周知を心がけた。
- ウ 学校へ届いた案内を随時周知したが、あまり参加できたとはいえない。

(4) 課題と次年度に向けての改善策

- ① ア ・天候の影響を受け、公開日が1日となってしまった。作業の進捗が遅いとの反省もあり、天候も十分考慮し、クラスの計画をしっかりと立てさせるとともに、生徒会からクラスへの働きかけをこまめに行う必要がある。
- イ ・来年度は新校舎での斯文祭実施となり、校舎の使用についてマニュアルを新たに作成する必要がある。(暗幕の釣り方、作品や壁画の設置方法など)
・バザーについては、商品数とチケットの発行数を一致させ、過不足がないようにするとともに、公開時間内早期に売り切れることがないように計画していきたい。
- ② ア 役員の仕事のスリム化を図り、活動しやすい環境作りに努める。2年生に対しても、生徒会活動に興味のある生徒には声をかける。
- イ 役員全員参加の会をもち、意思統一を図る。斯文祭については入念に引き継ぎを行い、早めに計画を立て、各クラス・各部活動の準備が円滑に進むように生徒会が指導する。計画的に理事会を開催する。
- その他 来年度は、新校舎への生徒会室移転に伴い、仕事内容や活動の仕方を大きく見直さなければならない。また、印刷機やパソコン等、活動に必要な機器の整備もしなければならない時期がきている。
- ③ ア 方法論については議論できたが、内容面についてはじっくり話し合うことができなかった。高校のHRの内容としてふさわしいものを扱うような方向に持っていきたい。そのためには、各クラスレベルでの十分な話し合いの時間を持つことが必要である。またHR委員会でのプレゼンテーションを通じて、HR委員の司会の力(リーダーシップ)の向上を図っていきたい。
- イ 引き続き団会、朝礼を通して呼びかけていきたい。また研修HRについては事前の委員会にも参加していただくようお願いしていきたい。
- ウ 模擬ディベートを実施したことで、HR委員が実際にディベートを体験でき、またHR委員以外の生徒はディベートに対する理解を深められ、各クラスでの

ディベートを円滑に実施できた。しかし、発言する際の声量や話し方、聞く側のメモを取る技術についてはまだまだ改善する必要がある。

- ④ ア 今後も事前研修会を行って、積極的に取り組ませたい。
- イ 地域のボランティア団体との連携を引き続き行っていきたい。
- ウ ボランティア参加募集の案内はたくさん届くが、高松市内の活動がほとんどで、交通費を自己負担してまで参加するというのは、困難な状況である。参加可能と考えられるものについては、ふれあい委員を通して広報活動に努める機会を増やしたい。